

様々なテーマに挑戦し

「ワイズソルブランドの確立」目指す！

株 ウイズソル

代表取締役社長

外輪 純久



新年明けましておめでとうございます。旧年中は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が産業界全体に及ぶ事が危惧されましたが、当社の主要取引先である石油・化学プラントメーカー・火電発電所では定期的な設備補修・更新等の定修工事が春と秋の時期に重なり、年間を通してお通し

て繁忙な状況が続きました。一部工事で工期が多少ずれ込んでいるものの、業績面での影響は軽微と言えます。

ただし、温室効果ガスの排出ゼロを目指す脱炭素化社会の実現に向けた目標が掲げられる中、化石燃料依存からの脱却を図る動きが加速しており、石油精製設備等では能力削減に向かっており、予算の圧縮が進みつつあります。

そのため、今後は検査予算の確保が厳しくなる事が予想され、働き方改革など産業構造の変化にも柔軟に対応していく事が求められ

ます。

例え、今まで視れなかつた設備箇所を見る、とい

うニーズを掘り起こす手段として、「無線化ロボット」

は、社内のIT開発センタ

でソフト開発を進めてお

り、IT技術の活用も加速

しております。

こうした技術開発を推進

する事で、社是である「守

護」とともに、「実行する

とともに、当社に頼めば必

ず対応してくれる」という安

心感を持った「ワイズソル

ブランドの確立」に繋げ

いきたいと存じます。

一方、本社ビルに移転し

て3年目を迎えるが、新

たに導入した「新経営管理

システム」が機能し始めま

した。働き方改革関連法の施行に伴い、残業時間の上

限規制やワーケーライフバラ

ンスが問われる中、労働環

境の改善を図りながら生産

性を高める事が求められて

おり、的確な労務管理を実

行しています。

特に、昨年はコロナ禍で

移動制限が伴いましたが、

事業所間の会合もWebを

使った会議を行い、各種資

格の受験者に対するオンライン研修も実施するなど、

感染防止対策に繋げてきま

した。

これから進む少子高齢化

への対応、また将来の東南

アジアへの進出を見据えた

グローバル人材の育成な

ど充実させており、「心・技

・倫理面を含めた人材育成

に関する教育をシステム化するな

ど対応できる環境を整えてい

ます。

このように今年も様々な

テーマに挑戦していく所存

ですが、今後も皆様のより

一層のご協力を仰ぎなが

ら、「無事故」「無災害」で

つきましては、本年も引き続きご支援、ご協力を宜

しくお願い致します。

なお、昨年はベトナムの

一流大学を卒業した若者5

名を日本語学校に入学さ

せ、一年間、日本語教育を

学んだ後に今年4月より入

社する予定でしたが、新型

コロナの影響で入国が遅れ

たため、入社時期が若干遅

れる事になりました。現在、

5名は無事に入国して教育

を受けており、今年7月に

連続板厚測定装置「UDT

DPI-32」を開発していま

すが、来年度はタンク底板

測定装置「UDT-S」を開発

します。

こうした中、当社では、

プラントの屋外貯蔵タンク

や配管等の腐食減肉検査を

指していきます。タンク底

板測定のケーブルレスが実

現すれば、作業の省力化が

図れ、検査効率の向上が期

待できます。

また、飛行機能を持つた

マイクロドローンに探

触子を搭載し、ボイラやタ

ンク、配管等の肉厚測定に

適用していきたいとも考え

ています。既に試作機開発

を進めており、今まで視れ

なかつた高所や狭小部の点

検に対応できるよう実証テ

ストを重ねてきます。

この他、検査データのプ

ログラム化や管理について

は、社内のIT開発センタ

でソフト開発を進めてお

り、IT技術の活用も加速

しております。

こうした技術開発を推進

する事で、社是である「守

護」とともに、「実行する

とともに、当社に頼めば必

ず対応してくれる」という安

心感を持った「ワイズソル

ブランドの確立」に繋げ

いきたいと存じます。

一方、本社ビルに移転し

て3年目を迎えるが、新

たに導入した「新経営管理

システム」が機能し始めま

した。働き方改革関連法の

施行に伴い、残業時間の上

限規制やワーケーライフバラ

ンスが問われる中、労働環

境の改善を図りながら生産

性を高める事が求められて

おり、的確な労務管理を実

行しています。

特に、昨年はコロナ禍で

移動制限が伴いましたが、

事業所間の会合もWebを

使った会議を行い、各種資

格の受験者に対するオンライン

研修も実施するなど、

感染防止対策に繋げてきま

した。

これから進む少子高齢化

への対応、また将来の東南

アジアへの進出を見据えた

グローバル人材の育成な

ど充実させており、「心・技

・倫理面を含めた人材育成

に関する教育をシステム化するな

ど対応できる環境を整えてい

ます。

このように今年も様々な

テーマに挑戦していく所存

ですが、今後も皆様のより

一層のご協力を仰ぎなが

ら、「無事故」「無災害」で

つきましては、本年も引き

続きご支援、ご協力を宜

しくお願い致します。